新　聞　　第3種郵便物認可

大豊産業（高松）ロボット事業に参入

養鶏 AIで効率化へ

インフラ整備や省力化、新エネルギーなどの関連機器を扱う商社、大豊産業（高松市）は、産業用ロボット事業に本格参入する。第1弾として、養鶏場内で死んでいる鶏を発見する自律走行型ロボットを開発。2種類のカメラで撮影した画像を人工知能（AI）などで判定することで、人手不足などで悩む養鶏業の作業効率化に貢献する。

大豊産業はグループ全体の従業員のうち半数をエンジニアが占めており、通信、土木などの分野で商品提案から設計、施工、システム構築、保守などを幅広く展開。近年はIoT（モノのインターネット）と共に、産業ロボット分野に力を入れている。

新たに開発したロボットは、AIによる画像監視とサーモグラフィーカメラによる体温チェックで死亡鶏を発見し、あらかじめ設定したスマートフォンなどに通知する。蓄積したデータでAIへの学習を繰り返し、93％以上という高い検出精度を実現。キャタピラ式の足回りで羽毛や鶏ふん、小さな段差がある場所でも走行できる。使い続けることで死亡鶏が出やすい場所の分析も可能で、場内の環境改善にもつなげる。

養鶏場は通常、上下に4段程度ある多段式のケージが並ぶ。死亡鶏の発見は衛生面から重要な作業で、ライトを照らしながら膝をついたり、背伸びしたりして数時間かけて巡回するのが一般的。餌やりや採卵、卵のパック詰めなどの自動化が進む一方、人手が必要で、作業を効率化させる上で大きな課題となっている。

死亡鶏、容易に発見

大豊産業が開発した養鶏場用の自律走行型ロボット

大豊産業は10月からモニター販売を開始。将来的には初期費用を1千万円程度に抑え、リースやレンタルも検討する。同社は今後も農業、畜産分野へのロボット投入を検討しており「高齢化が進む分野で事業領域の拡大を図るとともに、ロボットの保守、メンテナンス事業につなげたい」としている。

旧四国財務局跡 社福法人へ売却

国有財産審、答申へ

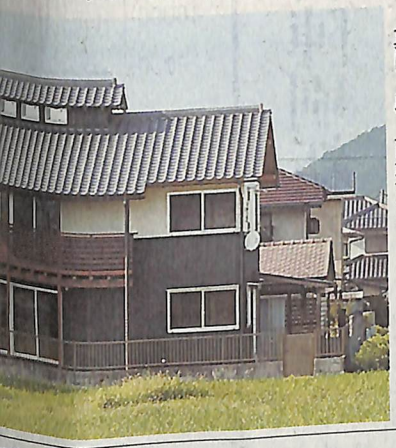
国有財産四国地方審議会の会合が4日、高松市の高松サンポート合同庁舎であり、同市中野町にある国有地の旧四国財務局跡（面積約2400平方㍍）について、同市の社会福祉法人さぬき（藤目真晧理事長）に売り払うことが適当とする答申をまとめた。

審議会は四国財務局長の諮問機関。同局は同合同庁舎に移転し、使われなくなった旧四国財務局の庁舎を売却するため、公共性の高い用途に限定して取得要望書を受け付け、2団体の利

ウッドデザイン賞

菅組（三豊）が受賞

セプト住宅「讃岐舎」で



「ウッドデザイン賞2020」を受賞した菅組のコンセプト住宅「讃岐舎」。写真はS邸＝高松市内

Wide ワイド KAGAWA

県内の企業で初の受賞としている。

を表に見せる真壁工法を採用し、屋根に日本瓦、外壁に漆喰（しっくい）などを使っている。今年3月現在、県内を中心に69棟を施工している。

16年に完成した高松市のS邸は構造材の大半に県産のヒノキを使用し、香川の風土や気候に調和した家づくりを目指した讃岐舎の集大成とも言える住宅。

ウッドデザイン賞を受賞した作品は同デザインマー

県庁で秋の叙勲伝達式

長年の功績たたえる

2020年秋の叙勲と危険業務従事者叙勲の伝達式が4日、県庁であり、地方自治や児童福祉などに貢献した受章者に浜田知事が勲章などを手渡し、長年の功績をたたえた。

式には総務省関係7人、消防庁関係8人、厚生労働省関係12人と、危険業務従事者叙勲の消防庁関係4人の計31人が出席。知事が一